特別
ハ7
4023

帝国図書館蔵

破吉利支丹

一きりしたんの教は。でうすと申大佛。天地万物は。彼より出て。第一自然一仏なり。是則天地万物は。彼なり。此仏は六百年ゝ。南蠻へ出世なり。衆生は。仏性なり。其名仏。ぜぜこうと云也。余は是を知ぜして。論じなり。

特 ハ7 4023
アカキ
58 2059

何況釈迦紙。そもびなる事。思ひ凝
此事なりと云よう。ゆゑ及ぶ。故し
て云でうせて紙の色みして。五丈
百物を。紙おし。紙なるべしとて。
其でうせ。今まづ量此まく
紙。拵置て。おせし紙ざるや。天紙ひ
らけてよるを。業。三世乃法佛。和尚
く。流生涅槃し紙を事。幾万

業やいそんや。こを中紙よ余思へ。
でうせ紙いくべ。紙南蛮計へ。
おせをと云。何を代授とをん
や。でうせ紙よをなること。成た
おし生まる国くを。腸備よるし。
を紙開闕よを。紙業。法紙弘仏
を。流生。紙涅度さを紙ふを事。
大きなる紙なり。正しを此

でうそそ。たとけ佛也。真上せどぞ
きゐ。しと。おせ。ちく。下界。此見史
よたるいりのよ。かけられ。ちとと意。
見。紙。天。飛乃。ゐと。せん。や。ケ紙。筋
なき。事。あ。ん。や。彼。きり。ちん
宗。本。見。吉。如。此。一。佛。ゐ。ち。ゐ。を。ち。ち
して。一。紙。紙。かち。ち。ん。ち。ゐ。ち。ち。意。
ゐ。ち。魔。法。邪。義。を。弘。ち。科。天

罰。ぬ。ぬ。ろ。べ。ら。び。ど。拙。な。き。理。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。拙。ち。蒙。昧。ち。人。多。し。ち。ち。恥。辱。
よ。ち。ち。や。天。國。ま。で。の。ち。え。ち。ち。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
三。世。ち。法。佛。ち。世。乃。ち。ち。意。ち。ち。
成。仏。の。ち。道。ち。故。ち。直。捐。人。心。ち。ち。
成。佛。と。云。ち。世。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

苦行。十二年の切磋して。臘月八日よ。
明星を見て。法華実相乃理
を悟り給ふ。夫より山を出給ふ。法華経
説給ひて。後。拈花示衆の時。衆皆
熟脱唯有二迦葉尊者一。破顔微笑。世尊
言。吾有二正法眼蔵一。涅槃妙心実相
無相。微妙法門。不立文字。教外
別傳。付属摩訶迦葉。迦葉より。

嫡々相承して。日本に傳て。今に到て。
以心伝心の旨。経文なを。強るよりき
まりなん教。されども実を乃見を当
うて。念慮識情を増長し。天地を作
者。経道を。輪廻乃業。経を。色を成
仏道とおりへ。ものかはとけうなき見
解して。心を未来。法を対せんと
すれ事。鵬燕廻。経を。月雲光。経論

まことなるべし
一日本にて神祇崇敬ひたすら事繁しなり。
是をでうをたをさうさう故と云也。
破して云迷日本を神国也。神国に皆
祇潔て神明祇崇めたまうべし。縁
此祭りなる仏光同塵を。法縁の始。
八相成道を。利物此終里と云なり。然ハ
先神と現しゆる跡垂迹なる事ハ。

人乃人祇やうけ。真此道に入給ふ
の方便なり。神と云佛と云ハ唯是水
波乃隔也。本是如此一仏化現して人乃
心に通じて。所度し給ふ。去む神祇敬
ひたまへと。彼一仏に報ひ奉れなり。
翁で。面白祇敬ハ奉れ小を。下大に
祇敬。其人乃。物以役人。百姓等を。
代表下代して。祇敬乃事。定まれ法

也。是皆。上一人に拔貴ひたまふの儀なり。き
はめてうん此教の如きそ。上一人に拔申ひたま
ふ教人。其下を用ひざるを。四海と云て
あらじや。かやうの儀、拔のことはんや。
一日中に。日月拔致ひ奉る事。偏ひ
也。是ハ世界の行儀なり。是をでうを
拔知ざる故と云也。破して云。支
人間の教を。陰陽と相中とて。四大合

して。神と成。魂し日輪ハ陽也。神。月輪
を陰。陰陽神也。陰陽とてあるして。此分拔
保事あんや。教ずが相中あれば。崇め
てをくこのきこうば。陰陽拔論なと
云て。天を用る事。天ハ日月
なり。世界拔照し給ふ。是恩報し
難し。人間の眼なり。自己拔照ひ。
是則日月の酒を受るあらじや。

月月を数へ年年を論なしと云へり。
五眼は眼根にぶんや。正理とも
さる事 如是滅は愚癡也
一きをもつて宗とする。無じて物は奇特
なる事とそるべし。是でうも乃至会なも
と云て。仏くうの事を作て人は
ふつうもつて少及。破して云奇特
なる事をきなつて魔王とも敬も

色一法は狐狸も奇特なり。天帝
釈と阿修羅とたゝかふ時。戦ひ破まて。
阿修羅は八万四千の眷属をつれて蓮
乃糸は穴より入て。かくれと云へども。
奇特とも成るしとせんや。天六通と
云て天眼通天耳通。他心通。宿命通
神行通。漏尽通也。天眼通と云は。大千
世界は事を一目より見る通也。天耳通と云

也。天千世界の事を。色蘭通なり。他心
通と云。他人の心中。明らかに通也。宿命
通と云。過去の事を知通也。死生
通と云。天上天の事。死生自由
通也。漏尽通。天魔の道をも通也。漏尽
通と云。天魔の乱をあらはす。知よ。先
悩を断じ。煩悩を知れ。備智なり。他心備
乃六通なり。奇特あり。玄乃四法を詳

なりと云へり。此理を知ざる人。天魔の
乱をあらはさるべし。支備は六通を
云。眼は文を見て不得。耳は色欲少
て不得。鼻は香紙かぎて不得。舌は
味をなめて不得。身は觸てさとる。
法は在く方法をさとる。意
は新に移りでしる。此心虚空同体な
れと。六通無碍乃道人と云。又無相菩

念の人もいと里。弥陀云。三世の仏諸仏
供養きんよりも。一句の偈を人に説供
養きんよりもまづ行乃人を。仏道と学ぶなり。更より奇
特と用ひ事おし
一きりしたんの教より。書類より実乃霊
おし。まづ仏乃死する時霊も共に
死を人間よりもでうもよりも。其の霊を

俗原たまふ故より。仏乃死をもどる霊
死をしてで今生を悪乃業より
苦楽と受。善業の者とぞうそう
とく楽をもぬ世界と俗垂く。地へ仏
ハし給ふ。悪業の者とぞいぬ悪乃地獄
にて苦界と俗垂置く。地へ落して言
と与へ給ふ。地ハ及ば。破して。
書類と人間の霊と俗り分給ふ

なまなかのとして人間の果報を思ひ紙帳にて地獄
へ落し給ふやうに人界を地獄へ落し
給ふ事を偏にうせの業也釈迦牟尼
御出世乃時の天竺より乃在家繁昌せり彼
ら智恵度大みして。稀なる見識を理と
仮事仏法よりとりとも。見解
なるよりて言語のみなり。数論外道
より二十又偏と立て。世界乃仮法を

世界真実一切冥偏と名く。天地未分
さきに先ち吉凶禍福無不。見聞見聞
色及事なり名字仮名とも
強て冥偏と号ハ常住
世間異滅にうつされず。第二十又偏
と神我偏と名付色ハ元来と名
付魂といつるのなり色ハ常住也
といつる。世間ハ二十三諦世界

衆生福福等乃。法の轉變の相也。是
我を高ぶり法を云。神我長短方法の
相と起せば。眞徳轉じて其形と成。
然則む世間を高ぶ轉變すれ事を
我乃情と生すれよりまり。神我一
切乃情と生せば。して眞徳を飯まれな
を高ぶ轉變。水を体て善を高ぶ樂を自
善悪を分を濃減すまじと。神我を

滅せば。喻を家を焼やれ其を中を
如しといへり。の見解我を対し
よ理を伝といへども。如来を如
ちを。生を自性と悟りて。我仏を
となるを。唯人きるを。全を
が道ぶ見をだを。正法を
ぶ事。深を普ぶ中の陸也
一世を四十九年。基源ぶ法我法を

ひとりも洩すまじ一字不説と経論の
見則なり是は備性経の如し一切の
一字不説乃意思量に及ばざるなり
まで修多羅乃教を月指にたとへば
指月を示して云ふ人心法を以て
を求めんとすれども得べからず
言説を以て知べからず寂滅を以て通
べからずと如是教事なり言説

此及外よりべつ七仏世尊同じ毘婆尸
仏尸棄仏毘舎浮仏拘留孫仏拘那含
仏迦葉仏釈迦牟尼仏是七仏と
いふ此一仏に法を供養する万徳なるべ
し七仏に其法不如又この弥陀如来に
世を十劫のあり賢劫比丘と申なり
この弥陀を梵語にては無量寿と
いふ観無量寿経に云無量寿仏

の身を百千万億摩天比丘の如く。眉間白毫右旋婉轉
紫金光明なり。眉間白毫右旋婉轉
すれば幸。須弥山比如し。仏眼如四天
海水。青白分明也。身の依処は実の如く演
説すれば幸。須弥山乃如し。彼仏比丘
百億三千大千世界比如し。文分
明なり。御長八六十万億那由他恒河沙
由旬。眉間白毫右五須弥山。御眼ハ四大

海水とする。毫大きなる仏あるや。
大千世界を。何須弥乃。弥中ハ比量せ
む。九牛の一毛ハ不可及。清浄ハ天
天と成。濁ハ下て地と成て。陰陽と
分ち。天ハ陽を司り地ハ陰を分て。
世界ひらけ。始ハ
父と。地を母と。陰陽合して。森
羅萬像ハ生ず。是則。一仏比須也

この心一佛乘を得たる人は大人なり。大力量の人なり。
云ふ力量の人は頭を門の項に回し。
提婆踏毳香水海。低頭俯視四弥天。
法華経に如是妙法華経。佛性法界
普して一切衆生と成。玄旨一切
衆生悉く佛性と成る也。喩へば天
上の一月乃至万々の水に移れり如し。大海
の一月一滴の水に一月あり

仏界。心法無形よりして。妙用を現じ。眼
よりして八物を見。耳よりして八色を聞。
鼻よりして香を分。舌よりして八物を
云。身よりして八物を取。脚よりして八
尚を行。心佛と時を佛也。心
佛と。是の時八元支なる。自己
佛性。名づけ為。方便と或時。
中道第一義と分。或時

四地と云。大乗somと云。大通智勝佛と云
大日如来師。觀音。地蔵菩薩。なりと思
ふ。数多しといへども。佛は二佛なく。
法は二法なし。法法平等と觀ずる
時は。松風流水妙音と聴ぶ。方法一如と
悟る時は。等正覚同じ。則涅槃といふ。
必ず是。真の成佛なる事。疑ふべからず
知ぬべし。されば。きりしたん教。

たつとむる。と云事。真日は萬て明珠と
すれば。ともなるべし。元生迷倒を
一佛と是大醫王なり。元生を信じ
病ぬれば。治しなんと擔ふ也。元生を信じ
て。是を用る時は。煩悩業障も病ぬ
べしと云事なし。されば。元生迷倒を
病ぬ不知して。真の法用る事をえ
うべし。病乃源と。為れば。義幻也

別紙実と留まれる故なり。因て衆人と為や
まん病也。貪欲嗔恚愚癡三毒乃
念おこるも未だ和と変ずる事。品別
と為り。一念仮えども三毒と雖
して八万四千の煩悩の病に成る
といへども。此を更よりして却
て病と愛すれども。偏に元来性空
業。一生乃若き是也。縁ら死生則ち

常住今生より執着したれば安念無鬼
と成。競まして責苦は此事。更よりも
甚しかるべし。死者の三途に堕ると云
も此時より也。況しや善悪に元来八
生ゆと雖も迷ひ事也。是を
皆顛倒乃心より出る也。顛倒と
云ハ。一ハ苦を楽と為て。まへ云
楽を苦と為ざるなり。二ハ無常を理

と為べし。此世界は親苦し。常住
此念なかるべし。三ふは十悪八苦苦
猶受。煩悩此きびしかるよ。清浄なるべ
り。色の身とふんぬるは此不浄
なる事と為べし。清浄なるとは
心也。是あやまり来るべし。
身乃不浄なる事を知へうべし。
臍六腑也。此穴より大小便耳あり。

鼻ちり。一ちりて。清き事あり。我ホの愛
も此此身なり。此身なかりしかば
此理なし。ちりしめんるよ。不浄観と立
ふへし。不浄観と為さん人は。屍此多さ。
漬乃かりよ。住せんとなり。是偏よ。
臭肉よ執是せざれとの教なり。此ふよ
離れべし。心せざれむ苦楽あり。
滅せまし。得ましし。心と入て心と

知べし。去て佛と衆生との間は。
水と氷とのごとし。煩悩は念佛に
成。氷の水と成るがごとくに。
てさこりなきが故に。たとへば氷の水に成て
唯一心。外無別法。心佛及衆生。是三
無差別と説給へり。此一心は行者の
耳もとに金を
一近年来まで。なぜ天竺は恐
きこともなく。私の法の作者と作立神社
佛閣。成滅却し。山王社を蠶人取べき
孫をふく。仮く塵言をくく人成たぶら
かせ。山王社盗人場を問んして。おまえ
なぜ来たんと。呼しに。数多の人を
落せ。此國の佛を。ほろぼす。日月を
いやもく。神明を。なきものと云

その罪科甚重ふして。天罰。佛罰。神罰。
人罰。一こして。終身こしたる。報
さて。彼ホよりて。着物胸ヲ満。
地獄ニ堕ル。ヒ人と云。報。ちくしょう。
びぬ。是魔法。彼も取。云彼ホ。
御制罰。ヒの。彼ホ天道。報。
ヒ。偽と接へ。各。ヒ人。地獄へ入る
悪道ニ堕ル。自業自滅。死。眼

前世。彼ホ。まんどゝ。ヒ乃。佛。子あん
ホ。一人。ひろ。ふ。天道。たく
ヒ。数多。ヒて。まん。ヒ。
きりもん。宗。報。ホ。罪。ホと
ひと。ヒの。たく。ヒ。
事。ヒ。天。ヒのあん。ヒ。
自滅。ヒん。事。疑。ひる。ヒ。
ヒ。ヒ。

終

願以此功德　普及於一切
我等与衆生　皆共成佛道

重